

第3章 紀州徳川家の時代



激動する幕末の紀州

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
昭和(戦後)・平成時代	

異国船の来航

1791（寛政3）年3月26日、アメリカの商船レディ＝ワシントン号が串本の大島樫の野に立ち寄りしました。ペリーが日本に来る62年も前です。船長の名はジョン・ケンドリックで、彼は、アメリカの太平洋北西海岸で毛皮貿易を最初に手がけた人として有名です。



樫野灯台

鎖国中の日本に突然現れた異国の船に対し、村人たちが釣り船に乗って見に行きました。また乗組員たちが村人を船内に招いたり、紙を与えたりするなど、アメリカ人との交流の記録が伝えられています。

ところが、1854（安政元）年9月16日にロシア船ディアナ号が紀州沿岸に現れたときには、レディ＝ワシントン号の乗組員と地元の人々との交流のような雰囲気が見られなくなっています。このころは全国の海岸を見張るように幕府から命じられていたからです。紀州藩でもディアナ号に対して厳しく警戒をして、農民や漁民でつくった浦組という軍事組織に出動を命じています。



レディ＝ワシントン号（復元）

1858年6月25日、13歳の紀州藩主徳川慶福は、幕府の大老井伊直弼や江戸城の大奥の人々に支持されて13代将軍家定の養子になり、家茂と名を改め、14代将軍となりました。また14代紀州藩主には、紀伊徳川家の分家である伊予（愛媛県）西条松平家から頼久が迎えられ、茂承と称しました。

1863（文久3）年3月、茂承は上京した将軍家茂の後を追うように、江戸から京都に入り、孝明天皇に会って和歌山に帰りました。この年の5月には、異国船を港などへ入らせないよう、孝明天皇の命令が茂

* 1 将軍の夫人などの居所のこと。

承に下っています。

同年8月17日、公家の中山忠光を大将とした尊王攘夷をとなえる天誅組が、大和国（奈良県）の五條代官所を襲撃し、占領しました。幕府の代官所を襲った天誅組に対し、紀州藩はこれをおさえるために3,900人の藩兵を向かわせました。しかし、紀州藩兵は実際の戦いにあまり役立たなかったようです。これに対して、津田正臣が指導してつくった在地の有志により組織された農兵隊と、和歌浦の法福寺の僧北島道龍が率いた法福寺隊が、藩の正規兵以上の実力を発揮し、注目されました。

幕長戦争と紀州藩

1864（元治元）年7月、一時京都を追われていた長州藩（山口県）の兵が京都へのぼり、御所の守りを固めていた薩摩（鹿児島県）・会津（福島県）両藩兵を攻撃しました。この戦いに敗れた長州藩は朝廷の敵となり、幕府は長州藩を討つために35藩に出動を命じました。幕府の強い態度に長州藩は責任者を処罰して一度は降伏しましたが、高杉晋作らは奇兵隊などを動員して長州の実権をにぎりました。

このような長州藩を討ちとるため、幕府は再び諸藩に出動を命じ（第二次長州征討）、1865（慶応元）年5月に幕府軍の司令官に紀州藩主茂承を命じました。これにともない、田辺領主の安藤直裕は、茂承の代理として石見国（島根県）からの攻撃部隊を指揮することになり、1866（慶応2）年6月、浜田に到着しました。直裕の部隊は、同年6月、7月と長州軍と戦いましたが敗れ、やがて戦場を離れて紀州へ帰ってしまいました。

一方、藩主茂承と水野忠幹が指揮する紀州藩の本隊は、安芸国（広島県）から攻撃し、この方面だけは唯一、長州軍と互角の戦いをしました。ところが、14代将軍家茂が



「徳川茂承行列図」（和歌山県立博物館蔵）
第二次長州征討後、帰還する茂承以下紀州藩兵のようすが描かれています。

1866年7月に病死したため、紀州藩など征討軍は戦闘をとりやめ、退きました。

鳥羽・伏見の戦いの敗兵と紀州藩

1868年1月3日、旧幕府軍と薩摩・長州両軍が対立したのがきっかけとなって、鳥羽・伏見の戦いがはじまりました。この戦いに敗れた幕府・会津・桑名（三重県）・忍（埼玉県）などの幕府方5,700人以上の人々が、御三家の紀州藩を頼って逃げてきました。

紀州藩では戦いに敗れて逃げてきた人々を藩の役所や城下の寺院に泊らせたり、紀三井寺村で弁当を差し出すなど手厚く保護しました。たとえば、会津藩の山川浩（後の東京帝国大学総長）は、御坊の中屋旅館で病気を治すために休んでいて、たいへん世話になったことを感謝し、1882（明治15）年に九谷焼の大皿2枚を同旅館に贈っています。

このように紀州の人々は、戦いに敗れて逃走してきた人々を温かくもてなし、多くの船を動員して無事に江戸などに送り届けました。そのために藩主茂承は新政府から忠誠心を疑われるほどでしたが、藩の運命をかえりみずに旧幕府側の人々の生命を助けたことは、紀州の人々がどのように心やさしかったかを物語っています。

* 1 天皇や皇室を尊び、外国人を追いはらおうとした。